

練馬労連 第30回定期大会

すべての労働者の賃上げと雇用の安定 誰もが安心して暮らせる社会を地域から築こう！

練馬労連は10月22日、第30回定期大会を、13組合54人の代議員の参加で、東京土建練馬支部会館にて行いました。

大会は、はじめに主催者を代表して議長の金田さんより「労働者の働く権利と暮らしや命を守る運動をすすめ、公契約条例の制定をはじめ練馬区内で働く労働者の要求や願いを実現させよう。誰もが平和で安心して生きられる社会、国民が真に大切にされる社会の実現を旨として奮闘しよう」との開会あいさつで始まりまし

た。また、3人の方が来賓としてお見えになりました。(東京地評事務局長の井澤さん、練馬全労協事務局長の眞下さん、東京都労働相談情報センターの石川さん)

井澤さんからは「練馬の地域で、闘う労働組合を束ねて28年にわたり大きく運動を作ってきたことに敬意を表します。春闘の取り組みなどで、労働組合の枠を越え運動を作り、闘いをすすめている練馬労連の経験や教訓を、東京地評としても学んでいきたいと思

います」眞下さんからは「長年にわたり一緒に諸活動に取り組んできた金田さんが退任されるとのことで、ぜひごあいさつをさせていただきます。これから新たな体制になると思うが、様々な運動について、これからも地域団体や市民団体



写真上 定期大会本会議場

写真下 来賓の練馬全労協事務局長眞下さん

とも共闘しながら頑張っ

てすすめていきましょ

う」とのごあいさつを頂

2022年度総括と新年度方針については、事務局長の佐藤さんから報告・提案がなされました。



総括では、まず2022年春闘、賃金闘争、労働者の権利を守るたたかいについて、9割を超える労働者の生活実態が「生活が苦しい」「生活にゆとりがない」というものでした。その要因は日本の賃金が下がり続けているためだとして、アベ・菅政権下ですすめられた政策の転換が求められるとしました。

平和、核廃絶、憲法を守り活かすための取り組みについて、2022年度は、練馬地域で合計9回、パレード、集会、講演会、展示会など様々な取り組みを行い、多くの区民に平和の大切さや、憲法守ろうの声を発信してきたことを報告。なかでも、9月19日（月）に、石神井公園駅にて行った「国葬 NO！軍拡 NO！原発 NO！@石神井公園駅」では、台風接近で大雨の中250人が石神井公園駅に集まり、リレートーク、スピーチ、国葬の是非を問うシール投票（367人が投票）などを行い、「国民不在の政治の強行の懸念、不安を吹き飛ばす区民の反応に励まされた」という感想も寄せられ

大きく成功させることが出来ました。

国民的課題で地域と連帯した運動については、練馬社保協とともにやってきた社会保障の拡充をめざす取り組み、フードバンクの活動、消費税率引き下げ、インボイス制度導入中止などを中心に報告。

特にインボイス制度反対の取り組みでは、区議会の各会派（インクルーシブ・共産党区議団・練馬区未来会議・都民ファーストの会・国民民主党）と懇談を行い、議会で取り扱っていただけるよう働きかけを行ったほか、陳情書も提出しました。

一方で、今年度の活動の中で見えてきた課題も。加盟組合の中には、組織人員の減少に直面しているところもあります。

組合員数の減少で、組合役員の負担の増大や、組合活動の停滞が懸念されます。仕事や私生活に多忙を極める若年層をどうやって組合に迎え入れるか、また、労働者全体の賃金水準が引き上がらない中、労働組合への理解と共感を広げるに何をすればいいのか。加盟組合の各労組の状況を的確につかみ、それぞれが抱える悩み、不安などの課題と経験・教訓を練馬労連全体で共有・対策づくりをしていくことが大切だとしました。会計報告・監査報告に続き、2023年度の方針について提案がされました。

練馬労連2023年度の活動方針（抜粋）

① 2023春闘勝利、大幅賃上げと職場の要求を実現するたたかい

春闘を結集軸として、すべての労働者の結集と、産別統一要求、職場要求を掲げ春闘に臨む。また、非正規雇用労働者の待遇改善、最低賃金全国どこでも時給1,500円実現に向け、取り組みをすすめるほか、練馬区で公契約条例の制定をめざす。

② 平和、核廃絶、憲法を守り活かすたたかい

憲法、特に九条改憲の阻止と、平和と民主主義を守る取りくみ、核兵器廃絶をめざし世論を喚起する宣伝行動に引き続き取り組む。

③ 国民的課題で地域と連帯した運動

消費税の緊急減税や廃止を求めるとともに、インボイス制度の中止を求めていく。社会保障制度については、制度改悪に反対し、健康保険料の負担軽減を求めていくことと、マイナンバー制度の中止、廃止などを求めていく。

④ 労働相談、労働争議支援の活動

引き続き相談者に寄り添った労働相談を行い、解決をめざす。

⑤ 組織拡大・強化について

加盟労組の経験・教訓を活かし情報を共有しあい、底上げを図るほか、未組織労働者への宣伝や労働相談を通じ、一人でも加入できる労働組合「CU東京練馬支部」の加入推進に取りくむ。組織強化については、地域の仲間との結集、交流から強化を図ることとして、すべての加盟組合から「幹事」の選出をして頂き「みんなで考え、みんなで決め、みんなで行動」の実践で強化を図る。

大会を補完した、8つの組合からの多彩で豊かな経験報告

東京土建練馬支部池田

さん「今年は、コロナ禍で出来なかった組合活動を取り戻そうとやってきた。

7月のソフトボール大会は、160人が集まり成功。9月には、憲法をいま一度学ぼうと、190人が参加し憲法の講演会。10月には、光が丘の陸上競技場に400人の仲間と家族が集まりリレーや玉入れなどを楽しんだ。仲間が集まって取りくむことの大事さを実感した。今後も、仲間の力を結集させ、様々な活動を前進させていきたい」



都教組練馬支部吉川さ

ん「ギャングエイジと呼ばれる年代の子どもたちは、学校では、喧嘩が絶えない

状況があったが、パーソナルスペースが確保されると、そんなにトラブルも起きずに、ゆったりと過ごせていると感じた。教室にぎゅうぎゅう詰めではなく、少人数学級であれば生徒たちは先生にゆったりと見てもらえる。小学校高学年は、現在一クラス37人だが、身体が大きい子供たちで息苦しいくらいである。教職員の働く環境改善と、少人数学級の推進を頑張っていきたい」



公共一般練馬支部川崎さ

ん「私は現在、学力向上支援講師として学校に勤務している。東京都は、小・中学校で算数の学力向上を目指し

ていて、一つのクラスを、算数が苦手な児童、よくわかる児童、その中間に分けて授業を進めるのだが、クラスの人数が多いと、グループに分けても一つのグループの人数が27人や30人ということもあり、少人数学級をすすめていくことは大事だと思っている」



郵政ユニオン練馬支部井上さ

ん「全国153名が7地裁で声を上げた集団訴訟は、昨年10月最高裁で、正規と非正規の格差が不合理である事が認められた。その当時会社も判決を真摯に受け止め、早急に制度改正に取り組むとコメントをしていた。しかし、それから会社が出してきた制度改正の案は、とても判決を真摯に受け止めた物とは思えない内容。この見直し案を阻止するため、制度改悪反対ピウを作り、郵便局前で社員に配布する等の情宣と共に、制度改悪をさせないための交渉をおこなってきた。結果、会社は見直し案を撤回、無期雇用の非正規社員にも有給の病気休暇が認められることに。1月2日と3日に出勤した際に出される祝日給も、非正規社員に支給されるようになった」



東京福祉バス従業員組合河

村さん「私たちの会社は、公的な機関が顧客でもあることから、会社は着実に利益を出している。6月に世田谷で同業他社では添乗員を時給1,170円で募集していたことが分かった。今まで当社は添乗員さんに1,050円しか支払っていなかった。それを会社に指摘すると会社側は突然、1,050円を1,170円に引き上げ、その代わりに添乗員の賞与は全て無し、と言ってきた。そこで私たち組合は、賞与は会社が、毎年利益を出しているのだから社員に還元すべきもので、支給無しは認められない、と主張。しかし、会社側も一歩も引かないことから、会社側と労働争議に入った。その結果、運転手は昨年の賞与プラス4万円、添乗員時給1,050円から1,170円にアップと賞与2万円を勝ちとることが出来た」



全東映労連東映動画労

組佐々木さん「東映アニメーションでは、今年前期の売上目標が1000億円にもなろうかとしているのに、働いている人に還元されていない。現在上映されているワンピースの劇場版を製作するのに、月に150時間以上残業する人が続出した。また、働く人に対し、ちょっとでも勤務態度や、勤務成績が問題と会社が判断すれば、総務や人事がいじめて辞めさせていく、という事が行われている。会社が勝手に契約内容を変えて働かせ、早出や残業の手当てが出ない、という人もいた。組合としては、何とか抵抗していこうとして、会社側とせめぎ合っている状況」



年金者組合練馬支部栗原

さん「年金生活者は、今年も年金支給額が0.4%差し引かれ、医療費の支払いがこれまで1割負担だったものが2割と、倍になった人もいる。高齢者にとって収入がプラスになることはなく、負担増や年金削減で下がるばかり。そこで今、年金の削減については裁判で闘っている。まもなく高裁で判決が出る。結果は厳しいだろうが、最高裁まで闘い、また、この運動は止めずに続けていく。年金削減をやめさせ、最低補償年金制度をつくることを大きな方針として今後も活動していく」



東京メディエール支部

千田さん「コロナ禍で、薬剤師も大変な状況だ。発熱外来に受診した方と接することはもちろん、PCR検査を受けた方に薬の説明などを行うのだが、時間と手間をかけ感染対策をしながらの対応になっている。ジェネリック医薬品製造会社の業務停止に伴い、薬の確保に毎日かなりの労力を割かなければならない状態も続いている。マイナ



ンバーと保険証の一体化や、75歳以上の医療費2倍化などに対し反対の声をあげて、医療をしっかりと守っていきたい」

なお、討論の後、総括、方針、決算、予算案は、出席代議員全体の拍手にて承認を受けました。

その後役員改選では、今大会をもって金田議長が退任、新たな議長に岸田幸雄さんが就任し、井上順平さんによる大会宣言の読み上げと採択が行われ、岸田新議長による団結がんばろうで締めくくりました。

金田さん退任あいさつ

「皆さん、本日の大会参加本当にありがとうございました。本日の皆さんの討論を聞いていて、本当に困難な事ばかりで大変な時期だと思いますが、なんとか皆さんで力合わせて少しでも良くなるよう、私もできることを頑張っていきたいと思いました。2006年に練馬労連の事務局長に就任し、以来議長など様々な役職で16年間お世話になりました。新たに役員に選出された皆さん、本日参加して頂いた加盟組合の皆さんのご活躍を期待しています。これまで本当にありがとうございました」



写真上 金田さんに花束の贈呈

写真下 締めくくりの団結がんばろう